

# 平成26年度「全国学力・学習状況調査」における海老江東小学校の結果の分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童生徒質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

## 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- ・海老江東小学校では、6年生 49名

## 3 調査内容

### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など</li></ul>

### (2) 児童生徒質問紙調査

児童生徒質問紙調査
<ul style="list-style-type: none"><li>・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査</li></ul>

# 平成26年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

海老江東 小学校

児童数

49

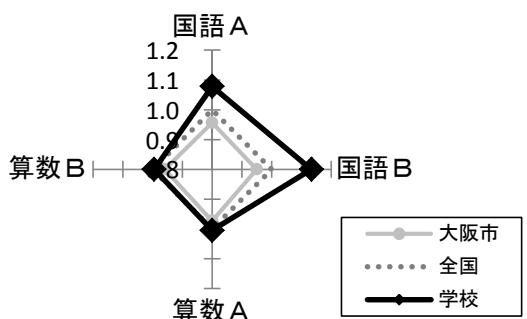
## 平均正答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	78.6	62.9	78.5	57.9
大阪市	69.7	52.7	76.0	55.8
全国	72.9	55.5	78.1	58.2

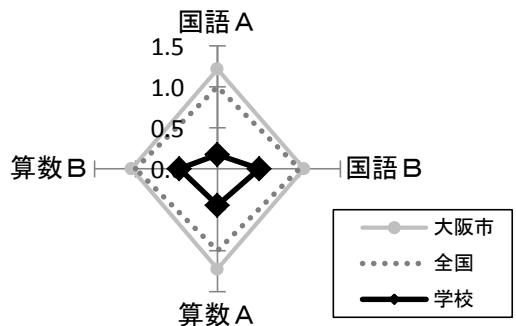
## 平均無解答率 (%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	0.4	4.7	0.4	2.0
大阪市	2.8	9.7	1.1	4.5
全国	2.3	9.2	0.9	4.3

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



## 結果の概要

- ◇国語A・Bが全国より高く、算数A・Bはほぼ全国並みである。
- ◇特に国語B(主として活用)は、全国より6ポイント高い。
- ◇無解答率は、国語と算数の両方とも全国より低い。特に国語A(主として知識)において低い値となっている。
- ◇国語・算数の双方において、やや2極化現象が見られ、それが全体平均を押し下げる結果となっている。
- ◇児童質問紙の8項目の内容では、「学習習慣」「言語活動・読解力」「自尊感情」「規範意識」「算数への関心」「国語への関心」の6項目で全国より高く、「生活習慣」「総合的な学習への関心等」は全国並みである。中でも「言語活動・読解力」と「自尊感情」「国語への関心」は特に高い。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

### 【成果】

- ◇長年の朝の一斉読書、読み聞かせが「読む」「聞く」の基礎となっている。
- ◇国語の漢字反復練習や算数の計算反復練習を重視して実施しており、成果を上げている。
- ◇全校の取組みとして5分間で200字程度を書き写す「視写活動」を独自に実施しており、「書くこと」に関して苦手意識をもつ子どもが少ない。
- ◇「家庭学習の手引き」を配布し子どもの自主学習をすすめた結果、「自分で計画を立て勉強している」と回答する子どもが増えている。
- ◇学校生活の中で、子どもたちが活躍できる場を多くとるよう工夫している。

### 【課題】

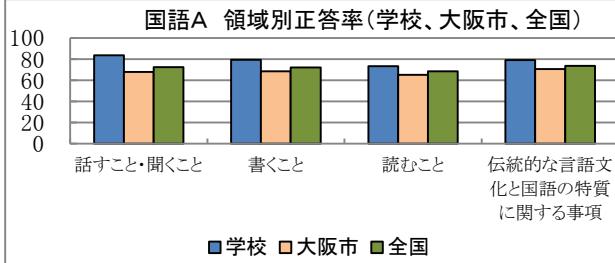
- ◆補習学習や習熟度別少人数指導を強化していくことで、低位層の子どもたちの学力向上を図る。
- ◆指導者である教員の授業力維持・アップのための研修の充実を図る。
- ◆読書環境の充実や教室のICT化をすすめることで、学校全体の教育環境の充実を図る。

## 【国語】

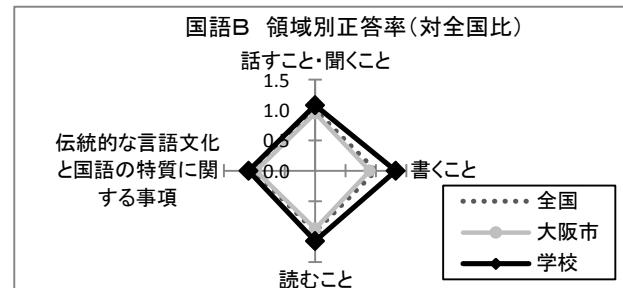
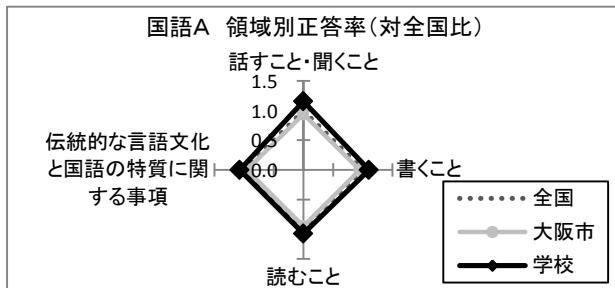
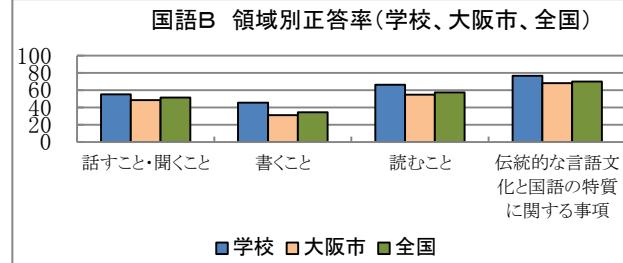
### 【結果の概要】

◇「国語の勉強が好きですか」では、肯定的回答が約70%、「授業の内容がよく分かる」では、肯定的回答が約90%と高い割合を示している。  
◇「自分の考えを書くときに、考えの理由が分かるように気を付けている」では、肯定的回答が92%に達しており、いずれも全国を上回っている。

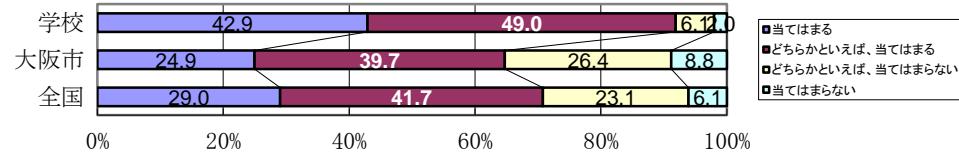
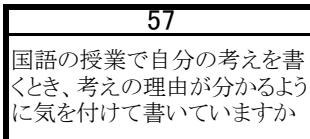
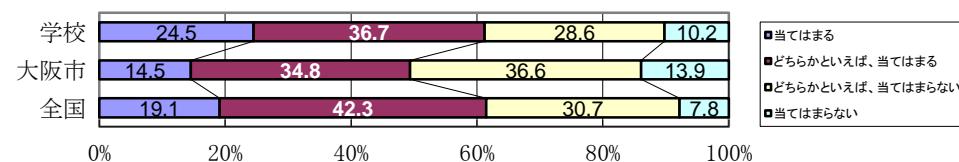
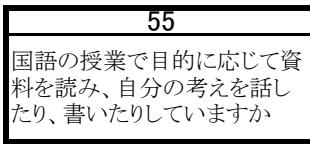
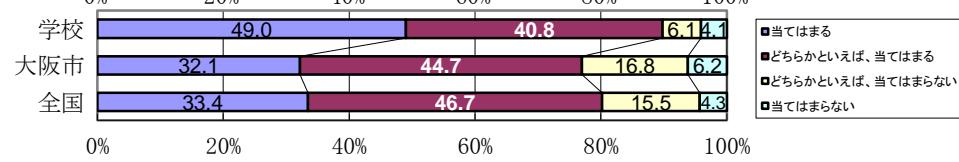
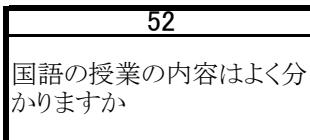
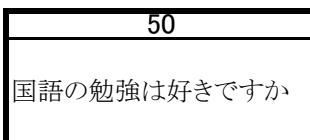
A 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	1	83.7	67.9	72.4
	書くこと	3	79.6	68.5	72.2
	読むこと	2	73.5	65.1	68.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	12	79.1	70.6	73.7



B 問題		平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
学習指導要領の領域等	話すこと・聞くこと	3	55.1	48.3	51.2
	書くこと	3	45.6	30.9	34.4
	読むこと	7	66.2	54.6	57.3
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	76.5	67.9	69.8



### 国語に関する「児童質問紙」



### 【成果と課題】

国語の授業の工夫が子どもたちの学習意欲や内容理解の向上に効果を上げている。また、書く活動についての抵抗感が少ないのは、これまでの視写活動の成果である。

### 【今後の取組】

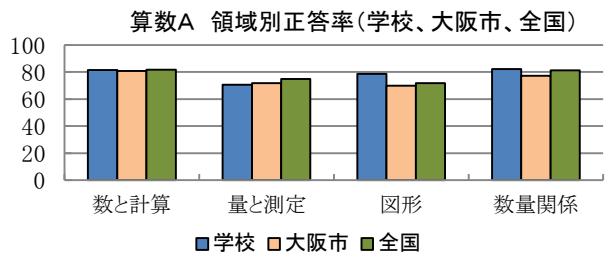
読む活動・聞く活動・書く活動の継続指導と校内教員のさらなる指導力向上のための研修を充実させていく。

## 【算数】

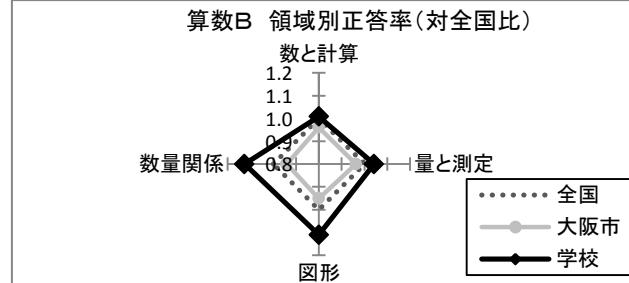
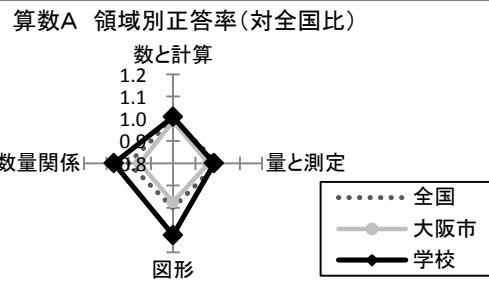
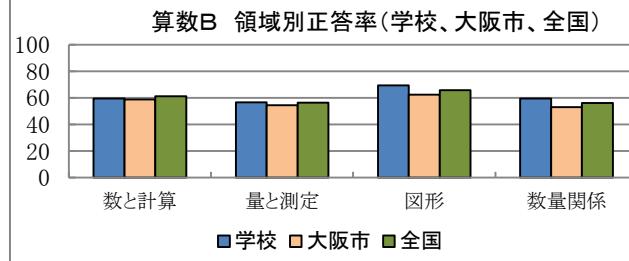
### 【結果の概要】

◇A問題(主として知識)・B問題(主として活用)とも「数と計算」の領域において全国よりやや低くなっている。A問題では「量と測定」の領域が全国より4ポイント低い。  
 ◇「算数の授業内容はよく分かるか」では、肯定的回答が94%と高くなっている。

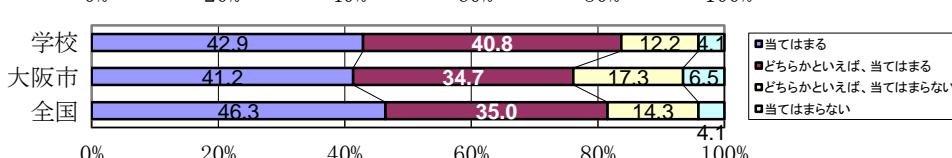
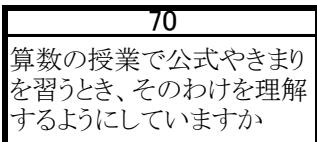
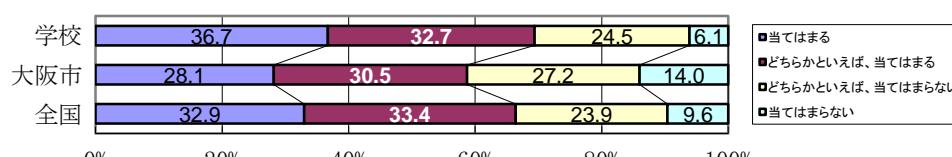
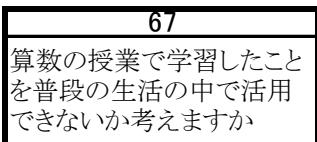
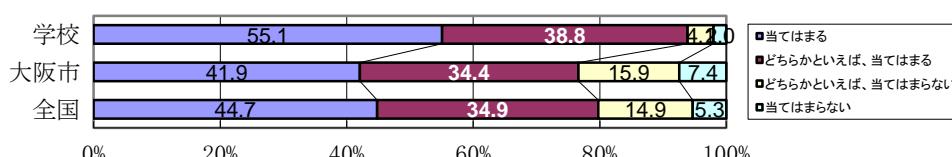
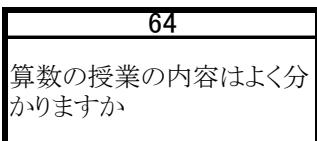
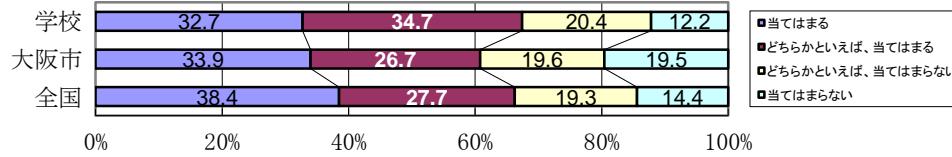
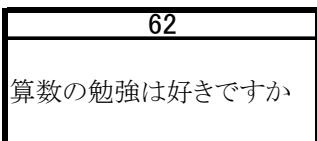
A 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	8	81.5	80.8
	量と測定	3	70.7	71.8
	図形	4	78.6	70.0
	数量関係	3	82.3	77.2



B 問 題		平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
学習指導要領の領域等	数と計算	8	59.4	58.9
	量と測定	5	56.7	54.4
	図形	1	69.4	62.5
	数量関係	5	59.6	52.9



### 算数に関する「児童質問紙」



### 【成果と課題】

授業内容については「よく分かる」の回答が多いが、A問題・B問題とも「数と計算」の領域の習得に課題がある。正答率分布において、やや2極化傾向が見られることから、低位層の基礎計算力の定着が課題である。

### 【今後の課題】

反復タイムの充実を図る。特に、習熟度別少人数指導の学習を充実させたり、放課後等の補習学習することによって、低位層の子どもたちの基礎計算力アップを図る。

## 学びの充実に向けて(1)

### 【結果の概要】

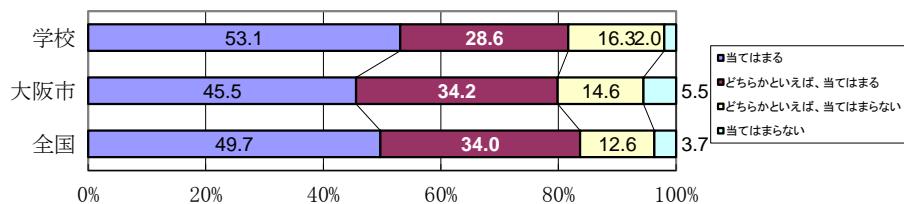
◇「授業で自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うか」では、肯定的回答は82%で全国とほぼ同じである。

◇「読書が好きですか」では、肯定的回答が86%で、全国の73%を10%以上上回っている。

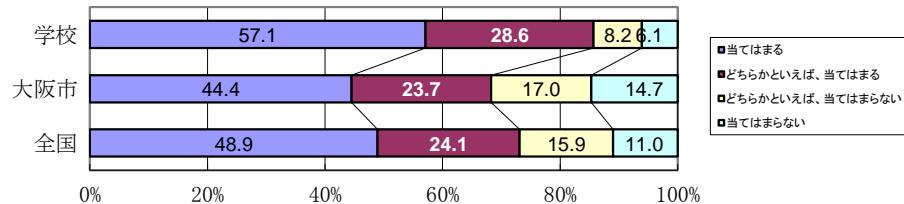
◇「学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができているか」では、肯定的回答が71%で全国の66%を上回っている。とりわけ、「当てはまる」の回答は、全国を12%上回っている。

質問番号	質問事項
------	------

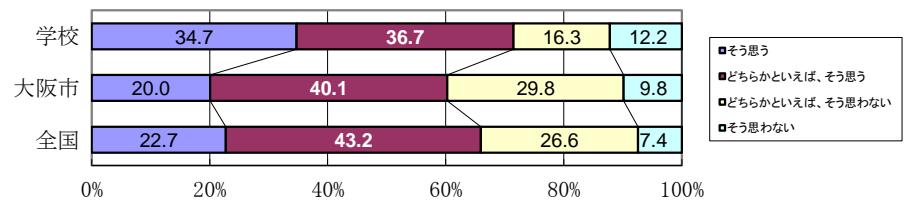
<b>42</b>	5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか
-----------	--



<b>53</b>	読書は好きですか
-----------	----------



<b>48</b>	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか
-----------	---



### 【成果と課題】

朝の一斉読書を長年にわたり実施してきており、読書が好きな子どもが多い。また、授業で自分の考えを発表したり、友だちと話し合うことで自分の考えを深めたり広げたりする場を計画的に取り入れている丁寧な授業の成果が見られる。本校には余裕教室がない状況であるが、そんな中でも読書環境のさらなる充実や教室の学習環境の改善を図っていく必要がある。

### 【今後の取組】

◇読書環境をさらに充実させるために、蔵書数や図書館開館時間を増やしていく。

◇全教室のICT化を本年度中に実施して電子黒板を活用していくことで、子どもたちが自分の考えを発表したり深めたりする場を多くしていく。

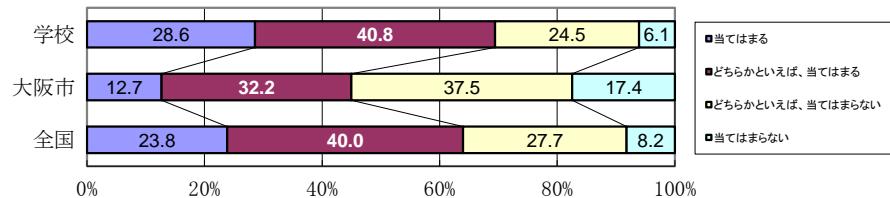
## 学びの充実に向けて(2)

### 【結果の概要】

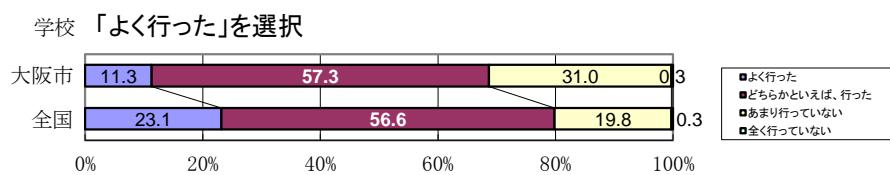
- ◇「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」では、肯定的回答が69%で全国をやや上回っている。
- ◇「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか」では、本校は「よく行った」と回答している。
- ◇「5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」では、肯定的回答が88%で全校をやや上回っている。

質問番号	質問事項
------	------

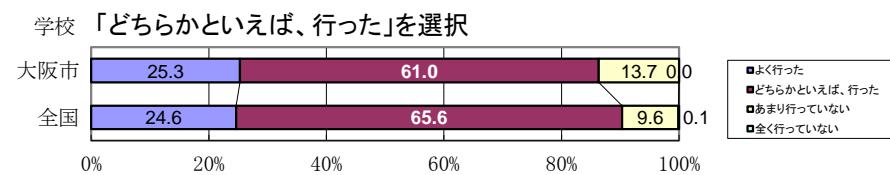
40
「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



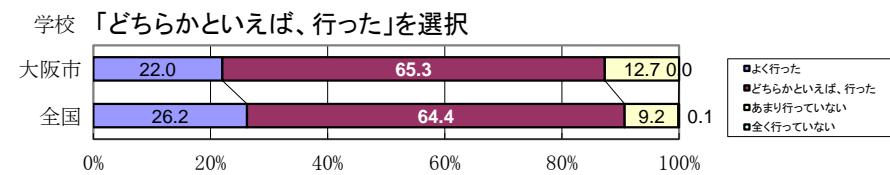
42(学校質問紙)
総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしましたか



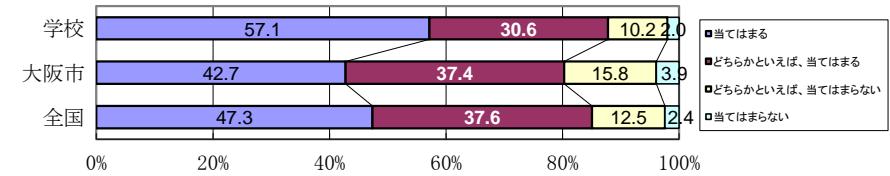
30(学校質問紙)
各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けましたか



41(学校質問紙)
自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしましたか



43
5年生までに受けた授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか



### 【成果と課題】

「総合的な学習の時間」では、①問題を見つける→②調べる→③整理してまとめる→④発表する)を重視した「調べ学習」を展開している。学び方を学ぶという視点から、今後も3~6年の積み上げが必要である。

### 【今後の取組】

「調べ学習」や学び方の定着については、学校全体で学年の発達段階をふまえて積み上げと定着を図っていく必要がある。また、子どもたちに4年間の「総合的な学習の時間」で身に付けるべきスキルについて教職員間で共有していく。

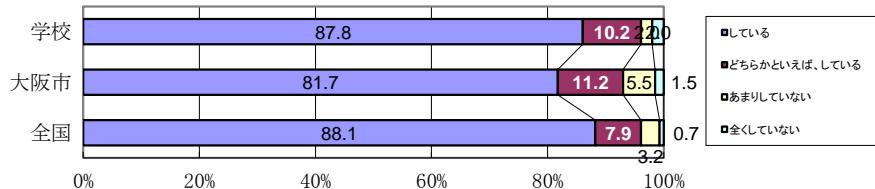
## 基本的生活習慣

### 【結果の概要】

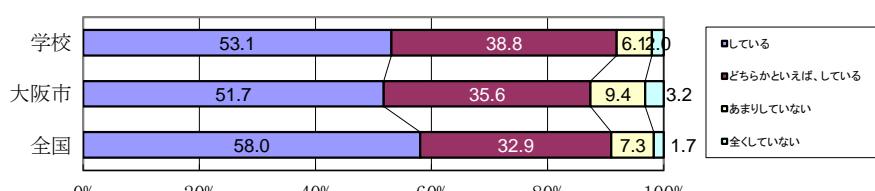
- ◇朝食・睡眠について、肯定的回答が全国をやや上回っている。
- ◇「携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットをしている時間が30分以内の子ども」は76%で、全国よりやや多い。◇「テレビゲーム等をしている時間が1時間以上」と回答している子どもが65%で大阪市60%、全国55%より多くなっている。

質問番号	質問事項
------	------

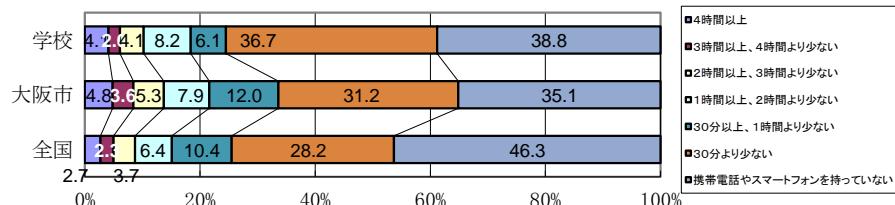
1	朝食を毎日食べていますか
---	--------------



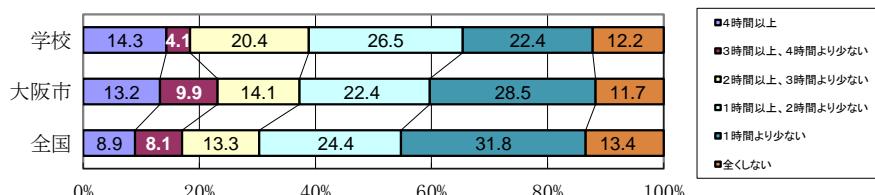
3	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか
---	---------------------



13	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(ゲームは除く)
----	--



12	普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム等含む)をしますか
----	---



### 【成果と課題】

- ◇朝食・睡眠等の基本的な生活習慣については定着しているが、数%の特定の子どもについては、個別の関わりが必要である。
- ◇携帯電話やスマートフォンで通話やメール・インターネットをしている時間は全国に比べて少ないものの、テレビゲーム等をしている時間が全国に比べても長くなっていることが課題である。

### 【今後の取組】

- ◇下校後の過ごし方や家庭学習の仕方について、「家庭学習の手引き」をもとに再度指導する。
- ◇児童朝会の講話や学級指導で、テレビゲームのやり過ぎによる脳への悪影響などの話を盛り込むことで、子どもたち自身にテレビゲームをする時間の制限をはたらきかけていくとともに、学校だよりや学校ホームページで保護者に協力して取り組んでもらえるようにはたらきかける。

## 家庭学習

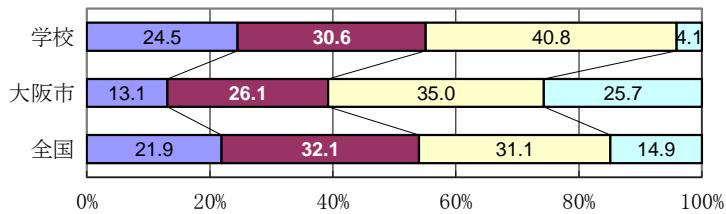
### 【結果の概要】

- ◇「家で学校の授業の復習をしていますか」では、肯定的回答が55%で全国とほぼ同じである。
- ◇「家で自分で計画を立て勉強していますか」では、肯定的回答が73%で全国の61%を10%以上回っている。
- ◇「1日当たりの勉強時間が30分以上」の割合は、90%で全国とほぼ同じである。

質問番号	質問事項
------	------

24

家で、学校の授業の復習をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

21

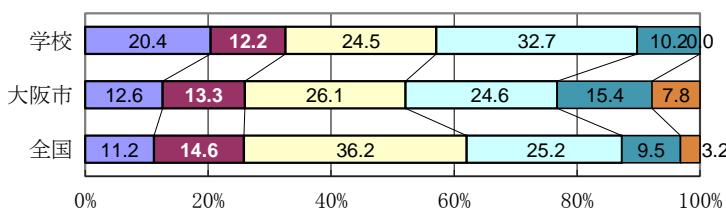
家で、自分で計画を立て勉強をしていますか



- している
- どちらかといえば、している
- あまりしていない
- 全くしていない

14

学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



- 3時間以上
- 2時間以上、3時間より少ない
- 1時間以上、2時間より少ない
- 30分以上、1時間より少ない
- 30分より少ない
- 全くしない

### 【成果と課題】

- ◇平成25年度より、「家庭学習の手引き」を配布し、子どもたちに自主学習の仕方について指導している。また、学校ホームページに配布文書として掲載し保護者がいつでも見ることができるようにしてきた。その成果が「学校の授業の復習をする」「自分で計画を立て勉強する」の割合に反映している。
- ◇「1日当たりの学習時間が30分以上」が90%あり、「全くしない」がなかったことは平素の指導の成果である。今後も、保護者の協力を得ながら子どもの自主学習の定着を図っていく必要がある。

### 【今後の取組】

- ◇年度毎に「家庭学習の手引き」の内容のバージョンアップを図っていく。
- ◇子どもの自主学習の中から、モデルとなるものを蓄積して整理していくとともに、自由に閲覧できるようにする仕組みづくりをすすめる。
- ◇学校独自の調査(全校児童調査H26.7)では、子どもたちの家庭学習時間は1日平均47分である。運営に関する計画の中期目標に沿って50分をめざす。

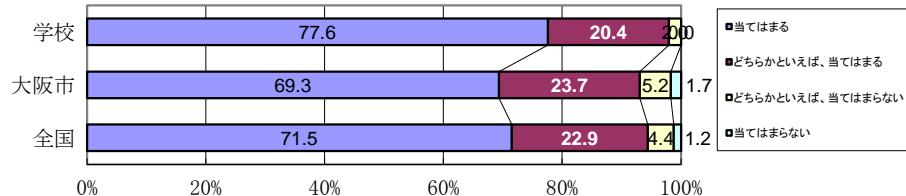
## 自尊感情・規範意識

### 【結果の概要】

- ◇「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがあります」では、肯定的回答が98%で全国をやや上回っている。
- ◇「学校のきまりを守っていますか」では、肯定的回答が94%で全国をやや上回っている。
- ◇「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」と「自分には、よいところがあると思いますか」の「当てはまる」の割合はいずれも41%で、全国を5~6%上回っている。

質問番号	質問事項
------	------

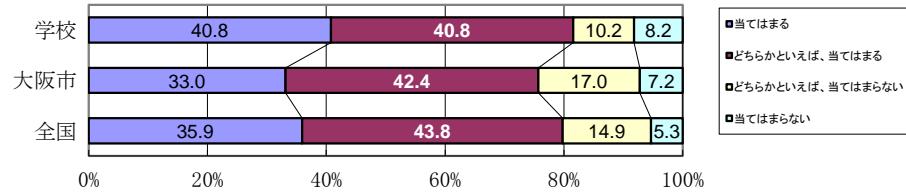
4	ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか
---	-------------------------------



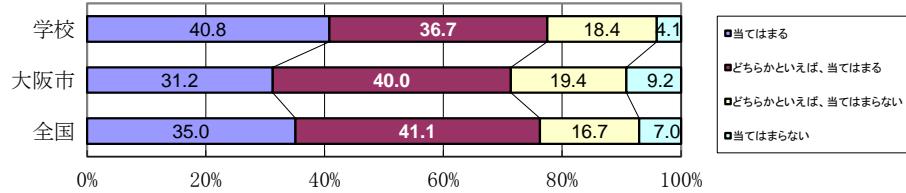
34	学校のきまりを守っていますか
----	----------------



28	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか
----	------------------------------



6	自分には、よいところがあると思いますか
---	---------------------



### 【成果と課題】

- ◇全体的にきまりを守ろうとする規範意識も高い結果となっているが、自分の感情を抑えられない・自尊感情が低い子どもの数が年々増加する傾向にある。
- ◇平素より教職員は、「良いところを見つけてほめる指導」を基本としている。子どもたちの間でも終わりの会等で「いいところ見つけ」を行い、互いによいところを認め合う場を多く設定していることが自尊感情の育成につながっている。

### 【今後の取組】

- ◇自尊感情の低い子どもたちに対する理解を深めるとともに、高めるための支援の継続と仲間づくりをすすめていく。
- ◇子どもたちが活躍できる場を学校行事の中で多く設定していく。

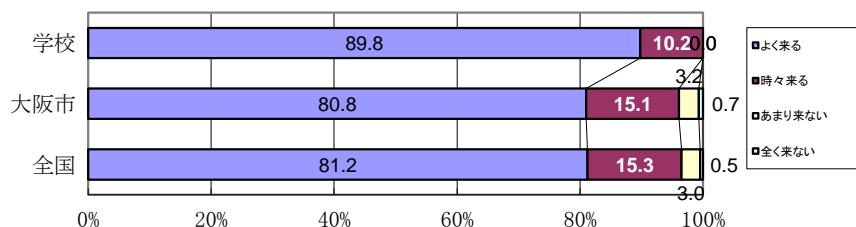
## 学校・家庭・地域の連携

### 【結果の概要】

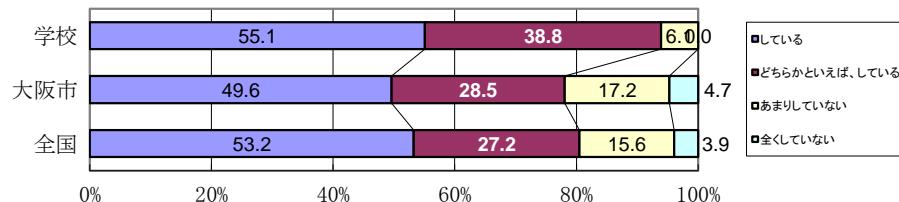
- ◇「家人の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか」では、肯定的回答が100%で、保護者の学校教育への関心の高さがうかがえる。
- ◇「家人の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話しますか」では、肯定的回答が94%で全国の80%より10%以上高い。
- ◇「地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか」では、「当てはまる」と回答した子どもの割合は少ないものの、肯定的回答の合計では63%と全国とほぼ同じ割合である。

質問番号 質問事項

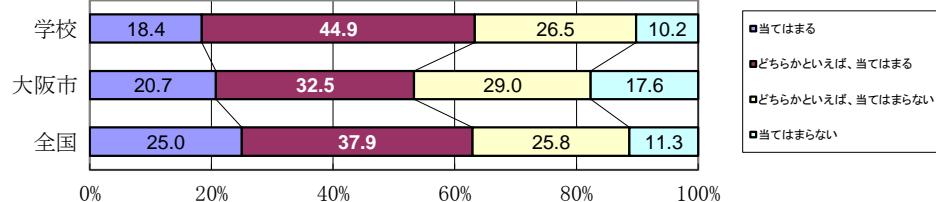
20  
家人の人(兄弟姉妹除く)は授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか



19  
家人の人(兄弟姉妹除く)と学校での出来事について話しますか



30  
地域や社会で起こっている問題や出来事に关心がありますか



### 【成果と課題】

- ◇親子間で学校の出来事がコミュニケーションの材料になっていることが分かる。学校の出来事に关心を持つていただいている保護者が多いことや家庭内の家族関係が良好であることがうかがえる。
- ◇子どもたちは学校行事にめあてをもちながら取り組み、それを達成していくことで大きく成長する。発達段階に合った活躍の場づくりを工夫していくことが課題である。

### 【今後の取組】

- ◇子どもたちにとって楽しい学校、家に帰ってお家の人に聞いてほしい話題を多く提供していくように行事の内容について工夫していく。
- ◇行事の内容や、途中経過等の情報を学校ホームページ等で保護者へ積極的に発信していくことで話題提供していく。

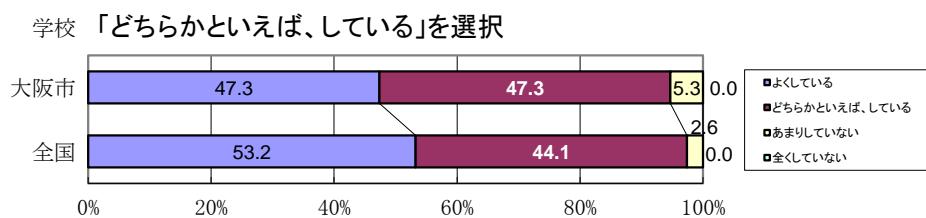
## 学校組織の改善

### 【結果の概要】

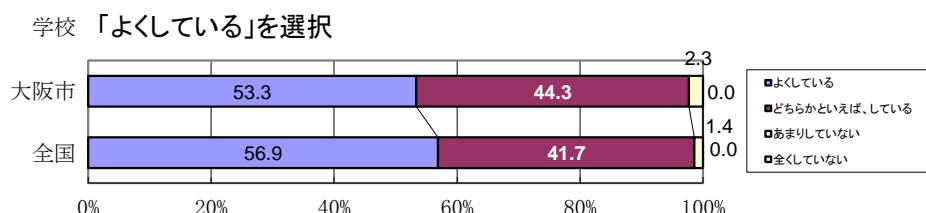
- ◇「学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか」では、「どちらかといえばしている」を選択、学校では、運営の計画に沿った部会を年に3回、全体会を3回実施し全教職員で進捗状況や課題を共有している。
- ◇「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか」では、「当てはまる」を選択している。めざす子ども像や教育目標は、運営に関する計画に反映させることで実現を図っている。
- ◇「授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか」では、「年間13回以上」を選択している。英語活動の授業研究はもとより、習熟度別少人数指導や特別支援学級の校内公開授業を実施した。

質問番号	質問事項
------	------

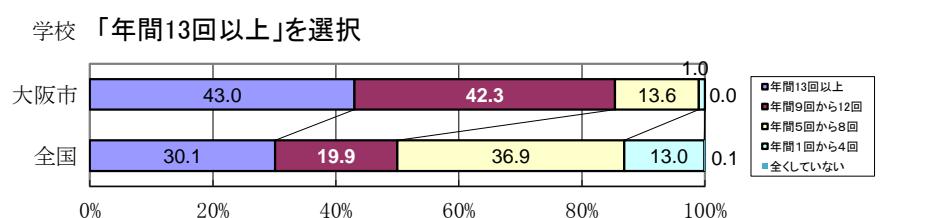
100【学校質問紙】
学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか



98【学校質問紙】
学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し、取組に当たっていますか



91【学校質問紙】
授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか



### 【成果と課題】

- ◇学校の教育目標や運営の計画に関する11の目標について数値目標を決め、子ども・教職員・保護者からアンケートをとるなどして達成状況の把握に努めている。また運営の計画4部門では部会を年3回、教職員全体会を年3回もち、達成状況の確認と今後の課題を整理して実践に生かしており、PDCAサイクルが正常に機能している。
- ◇教育目標にそった「めざす子ども像」の実現という視点にそって、自己点検していく場の確保が課題である。

### 【今後の取組】

- ◇授業研究については、本年度より教員は全員授業をする計画で進めている。10月までに研究教科である英語活動の授業研究を終え、指導の改善に役立てている。また、3~6年の習熟度別少人数授業についても、校内で授業公開日を設け、教員が互いに見せ合うことで授業力の向上を図っている。
- ◇毎月の生活指導連絡会等の話し合いの場で、「めざす子ども像」の実現にせまる積極的な提案を求め採用していく。